

---

## 2005年秋冬 社会環境とファッション傾向

有限会社 スタジオレイ 鈴木 玲子

---

世界的に政情不安がつづき、また日本ではこの夏のきびしい暑さと台風、地震の被害など、何かがおかしい、このままでいいのだろうかなどと心の晴れることのない1年だったように思います。

景気好転の兆しがみられるという公的発表も業界は額面どおりには受けとめられず、市場は不透明に覆われているようです。

### 拡大系社会の後にくるもの

社会環境の変化やそれにとまなう社会生活の変化によって、人々の生活感情や消費意識も変わります。何に生活の価値を見出すのでしょうか。

一方通行のトレンド・ファッションの終焉、それに代わる個別のこだわりの時代へと大きく変化しています。

誰もが持つ同じ物より私の五感に訴えるもの、私の感じたものを買いたい、それが私にとっての価値あるものだと考えるということでしょう。この数シーズンいわれているカスタマイズ、PBブランドなど、消費全般に個の主張が強くみられます。

大量生産、大量消費、その次に大量廃棄という目に見える拡大系の社会のあとは環境汚染、環境破壊という現実を、身近な自分自身の生活問題として考えようとしてい

ます。

持ちすぎること、ありすぎること、拡大する消費生活に、きちんとしよう、ちゃんとしてしようという当り前の言葉が聞かれるようになりました。

いずれも、崩れや乱れのない整然としたさま、基本に合致したさまなどという意味です。

新しさや次の方向を示す言葉としては極めて日常的で、新鮮さもありがた味もないように感じるかもしれません。でも、これ程次を示唆する言葉はないように思います。

消費者の視点で靴をみたとき、当り前とはすこし違うと感ずることがあります。

○売場で靴が、スリッパのように、つま先を片方にさし込んで並べられているのをみて思わず足を止めてしまった。

—1足、1足がまるで宝石を扱うようにディスプレイされている靴もありますよ—

○どう考えても、きちんと歩くのはむづかしい、細く長いトゥラインとヒール、こぼれるような浅いカット。

—足入れ、歩行を充分考えた靴も沢山ありますよ—

○靴ってこんなに安く売れるものなの。  
—オートクチュールの洋服よりも高い靴だっ  
てありますよ—

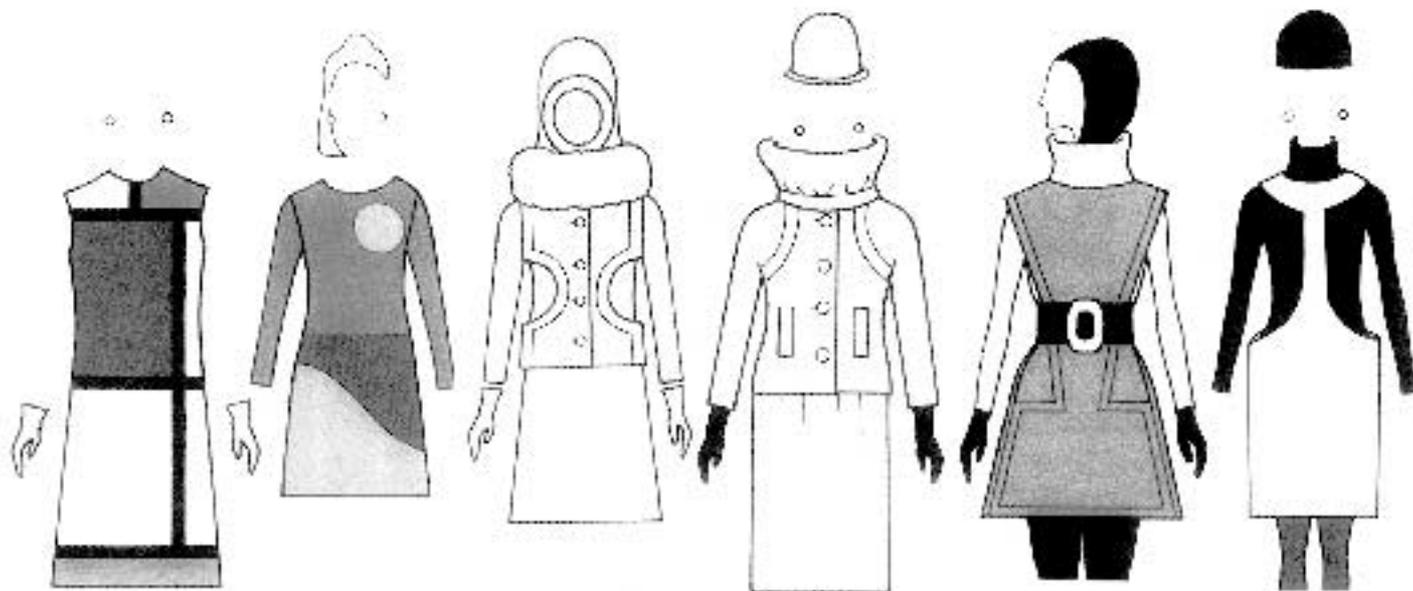
靴それぞれ、売場も価格もそれぞれとい  
うことは承知はしていても、靴はファッショ  
ンと同時進行で表現され、さらに機能性と  
ファッションというきびしい二重構造をク  
リアすることが業界の力だと信じながら  
も、この現状は消費者の眼にはどのように  
映るのかと考えることがあります。

### きちんと！ちゃんと！

ファッションが生活全般にかかわること、その人の生き方まである意味でファッ  
ションという範疇でくくられる時代には、  
生き方、暮し方が問われるのは当然のこと  
でしょう。

生き方、暮し方は積み重ねと同時に壊し  
ながら創造することでもあります。地球規  
模を考えるまでもなく、国も地方もそして  
個人も、新しさを求めることは壊しながら  
創造することだと思います。

'60年代



ボタンをきちんととめなさい、洋服は肩  
できちんと着なさい、靴は踵かかとを入れてちゃ  
んと履きなさい。当たり前すぎるのですが、  
洋服はそのように作られているのだから、  
靴はそのように作られているのだからと思  
います。

このところ路上に座り込む学生や若者が  
少し減ってきているようです。どうやらこ  
の行動はカッコ悪いことらしい、社会の規  
範の中で人々とかかわっていくこと、これ  
が生きることのマナーだと思いはじめたの  
でしょうか、特にファッションに関心のある  
若者ほど椅子にかけか立つかして、そ  
してちゃんとしたいからと言います。

少しずつでしょうが、ちゃんとしたい、  
きちんとしたいということが個人から社会  
全般に広がることを期待したいと思いま  
す。

### <2005年秋冬ファッション傾向>

シーズンのトレンドがもっとも早く具象  
化されるのはファッションです。

ファッションが生活に根づいた現代では、洋服そのものには大きなトレンドが存在しない傾向があり、アクセサリやヘア・メイク、靴、バッグなど周辺の装飾でコーディネートを楽しむようです。

生活全般にあらゆる対立項がくずれ、まったくフラットな関係、個の時代です。

年齢

性別

国籍 は当然のこと

地味と派手

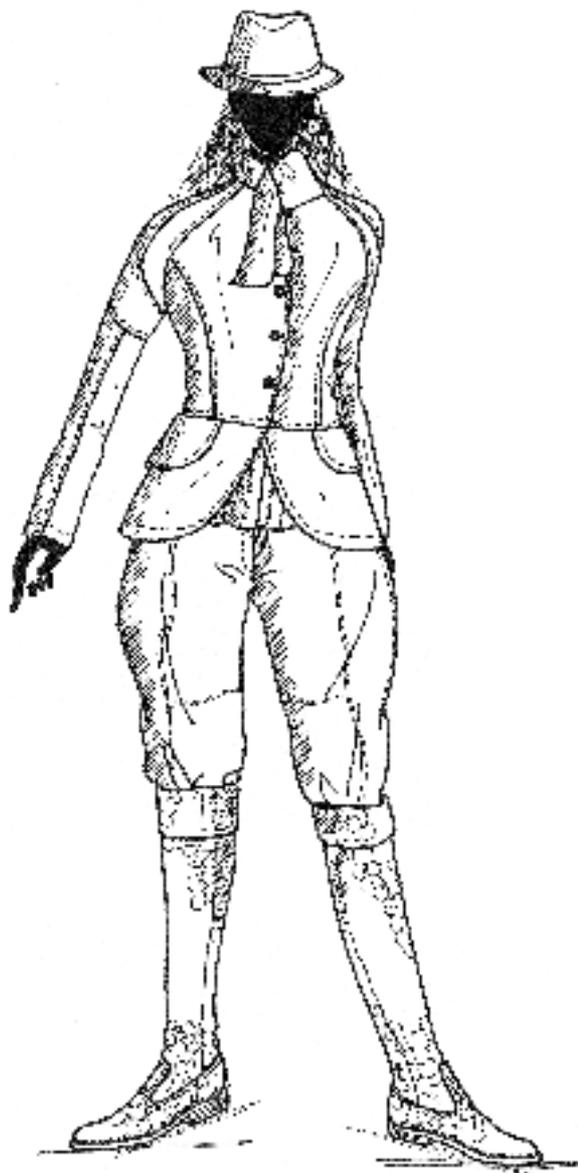
カジュアルとエレガンス

高価格と低価格などは、ある種の相乗りの効果によるコーディネートの時代ということでしょう。コーディネートによる新しい刺激、自分の考えでこうしたということこそファッションといえるのでしょ

う。間口はせまくても魅力のあるオレ流、自分流が市場を動かしているようです。

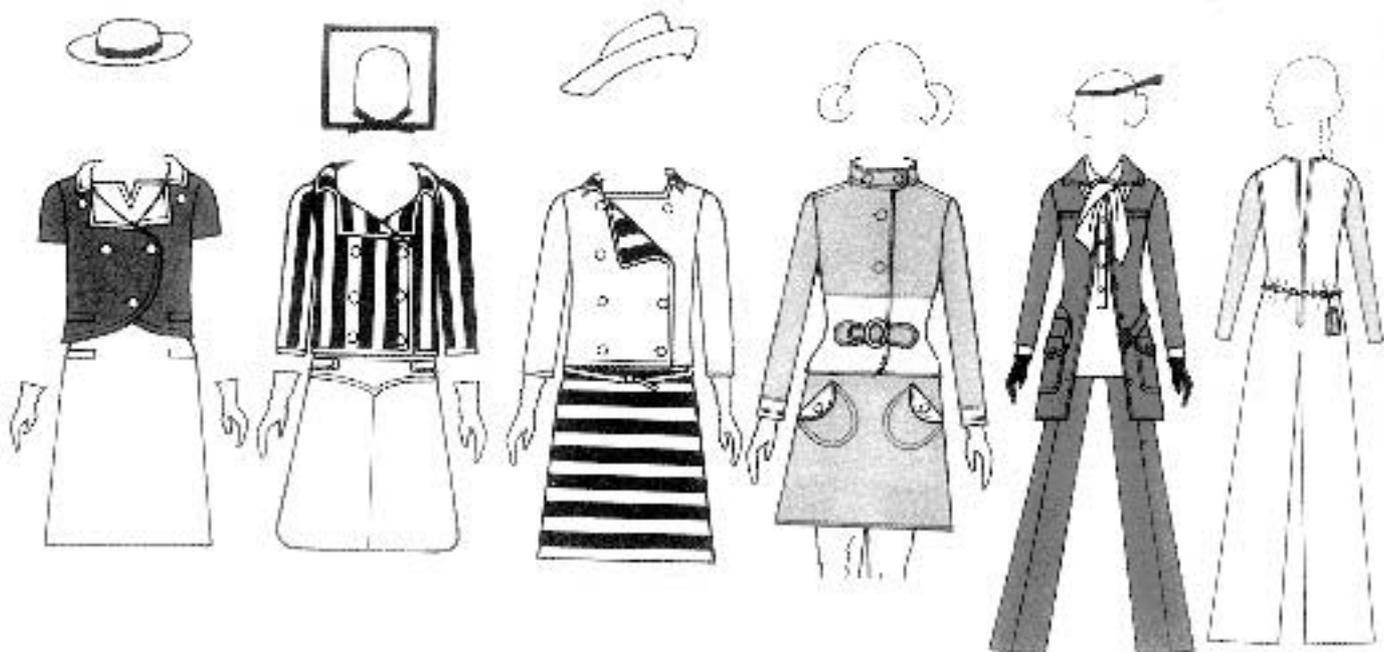
### 今シーズンの主な傾向

性能と革新が融合したクラシックがファッション全体に影響を与えることになるで



A クラシックの再解釈

'60年代



しょう。完成された定番アイテムの大胆な新解釈です。着やすさ、質、飾るたのしみという基本の見直しです。

ここしばらく続いたエレガンスの基調は継続しながらも、その内容は転換期にあるようです。大人だけがもつ成熟したエレガンスが一層強調され、装飾的な要素が過剰なまで進行するでしょう。また、エレガンスは上質なカジュアルの表現でリラックスしたソフト感がみられます。

もう一つの傾向として、クラシックの新解釈による新しいモダン、強い意志的な女らしさがあります。新素材の開発による大胆で創造的なシルエットです。セクシーとは異なるグラマラスなスポーティー感です。

以上、主な傾向をあげましたが、いずれも心地よさ、リラックス感、自然体という安らぎと楽しさを求めながら時代に立ち向かう強い意志が感じられます。

特に40代、50代の社会に対する積極的な姿勢は、これからのマーケットを動かす原動力のように思います。

'70年代



身の丈に合った身近な問題からの取り組み、介護問題、ヘルパー、ボランティア、環境問題、食の安全、旅行、学習など、すべては次の商品開発につながることであり、それも生活ファッションと考えます。

### ◎クラシックの再解釈

【過剰な装飾をそぎ落した本質的なスタイルへの移行】

長期にわたってくり返し流行し完成されたスタイルを、モダンな構築ラインによる乗馬やフェンシングをイメージする、クラシック&スポーティーの機能的スタイルの再解釈です。

### シルエット

ボディーを立体的に包みこむ構築的なボディコンシャス、乗馬服や制服のイメージ、パターンでの構造的な切替えと、それを強調するラインがポイントになるでしょう。

## 素材

- ・新加工されたクラシックなウール
- ・ハイ・レベルなファンタジック・ツイード
- ・ミックス調のフランネル
- ・コーデュロイ
- ・透明な樹脂加工
- ・スエード調
- ・コンパクトなニット
- ・レザー調
- ・シワ加工
- ・マットなコーティング
- ・軽量でボリューム感
- ・キルティング
- ・ダブルフェイス
- ・しっかりとしたラシャ調とローデン
- ・ファイン・ゲージ・カシミア

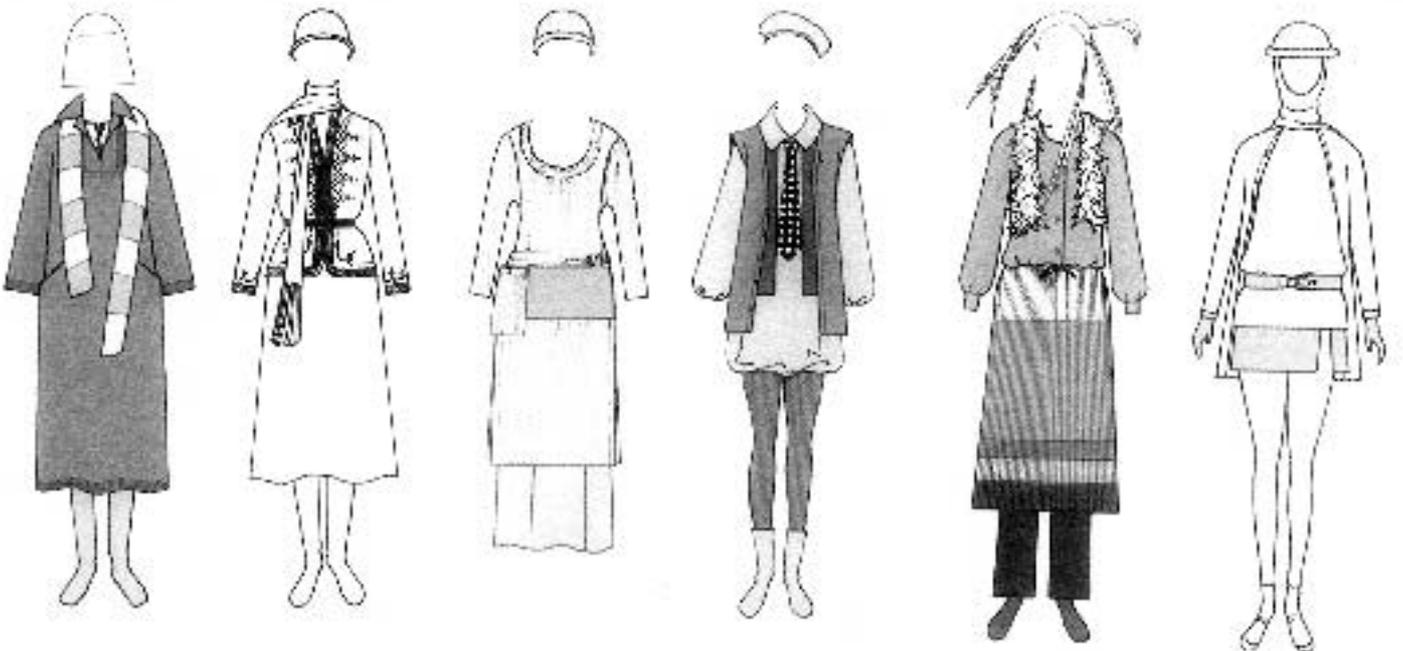
## 色

- ・ヒース・ビート（腐葉土）
- ・ブラック・リード（黒鉛）
- ・フランネルグレー
- ・マホガニー・ブラウン



B 華やかでリラックスしたエレガンス

## '70年代



### ◎華やかでリラックスしたエレガンス

【先シーズンから継続する、華やかなエレガンスを基調としたカジュアル】

贅沢なクチュール感覚の素材や非日常的なアイテムを、カジュアルに着崩します。

エレガンスを強調する装飾感と、リッチなヴィンテージ感を重ね着で表わします。

#### シルエット

ソフトなシルエット

色、素材すべてに自然なやさしさを重ね着で見せ、特に薄手アイテムの重ね着のXラインがイメージです。

#### 素材

- ・花柄を中心とした繊細なジャカード
- ・ヴィンテージ調ツイード
- ・フェミニンな薄手素材
- ・アンティーク風レース
- ・パティナ（古色）調仕上げ
- ・装飾的ニット
- ・シルキーな光沢感
- ・さまざまなファー

#### '80年代



- ・刺しゅう、ブレード
- ・マトウラッセ（ふくれ織）
- ・はく（箔）プリント

#### 色

- ・ルビーの赤
- ・ローズ・レイン（あせたピンク）
- ・クリムゾン・ナイト（ダークな赤紫）
- ・グラビー・ゴールド（あせたゴールド）
- ・ハニー・ブラウン
- ・リーフ・グリーン

### ◎シンプルでスポーティーなグリッター感 【グラマラス感覚のシンプルなスタイル】

'70年代のグラム・ロック、'80年代のディスコ・スタイル、'90年代のヒップホップスタイルをデザインソースに、それぞれの時代を賑わし、話題になったスタイリングで、グリッターな強い女らしさをもつシンプルなスタイルです。

#### シルエット

軽く薄いハイテク素材による部分的なボ

リュウム感のあるトップと、小さくミニマムな印象のボトムの直線的なスタイル。

### 素材

- ・ 薄く高密度なストレッチ
- ・ ドレープ感のある合繊ジャージー
- ・ シンプルな中肉ウール
- ・ フェミニンな薄手ウール
- ・ カラード・ファー（濃い色のファー）
- ・ ツイルなどの光沢感
- ・ 完ぺきなコンパクト感
- ・ 弾力感
- ・ 装飾感のあるデニムとコーデュロイ

### 色

- ・ プロミス・ブルー
- ・ クール・ネービー
- ・ リーフ・グリーン
- ・ パンプキン
- ・ サンディ・ブリーズ（砂嵐）
- ・ ヒース・ビート（腐葉土）
- ・ グラビー・ゴールド（あせたゴールド）



C シンプルでスポーティーなグラマラス

'80年代



## 色傾向

さまざまな不安や不透明な社会状況から、安心できるもの楽しいものに囲まれていたいという思いをそのままに、今シーズンは穏やかな安心色ともいえる色が提案されています。

- ・クールなイメージのグリーン系からブルー系の色、自然で上質、ツヤ感を意識したグループ
- ・やさしいブライト・カラー、弱々しくもろいパステル・カラーではなく、ある種の強さをもった明るい色
- ・秋の自然風景をイメージする色、グリーンや、くちた土の色のグループ
- ・都市に輝くネオンやレーザー光線の色  
ビビッド・カラーと黒の強烈な対比など、都会感のあるグループです

テーマがありそうでテーマのない時代、情報を読みながらその背景を想像しなければなりません。情報は使い捨てるものではなく、積みかさねるものと思います。

積みかさねることでも過され「オレ流」や自社のプライドが保たれるものではないでしょうか。

我が社のオリジナルは、考え方、こうありたいという哲学、次に誰れに、どのように売るかがあり、その結果として「靴のスタイル」が決るのではないのでしょうか。

情報を積みかさね自社の歴史の基本にするには、読みながら想像し創造すること、洋服をつくるには両手にあまる程の情報、想像、技術があればいい、でも靴をつくるには両手どころか四本の手にあまる程の情報、創造、技術が必要だと自負したいものです。

## 参考資料

千村典生「ファッションの歴史」

(鎌倉書房)

